

第484号 1月号 2025.1.20

岐阜県

商店街だより



発行元：岐阜県商店街振興組合連合会 岐阜市藪田南 5-14-53 TEL：058-277-1107



謹賀新年

岐阜県商店街振興組合連合会 理事長 日比野 豊

新年明けましておめでとうございます。令和7年、新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

旧年中は、岐阜県商店街振興組合連合会事業の各般にわたりまして、格別の御支援御協力を賜り、誠に有難うございました。心より厚く御礼申し上げます。さて、昨年は1月の能登半島地震や台風、ゲリラ豪雨などの自然災害が多い年でした。昨今の原材料費や人件費の上昇は続き、様々な業種の企業収益を圧迫しており、コロナ禍前の景況感には戻っていないように感じました。

一方、県下の各地域のお祭りでは、「ぎふ信長まつり（岐阜）」を始め、「たじみ陶器まつり」「瑞浪美濃源氏七夕まつり」「ろっけん通り歩行者天国（各務原）」など、コロナ禍前以上の賑わいを取り戻したように感じました。

また、「清流の国ぎふ」国民文化祭が開催され、演劇、吹奏楽、美術など、岐阜県の魅力を発信できた文化の祭典となりました。

柳ヶ瀬商店街においては、令和6年7月末で岐阜高島屋が閉店し、全国で4県目の百貨店のない県となりましたが、百貨店に頼らないまちづくりに向けて、新しいスタートを切りました。各商店街のイベントにおいても、「まちなかスクエアガーデン（大垣）」「恵那まちなか市」「六斎市（中津川）」「TKC DANCE FESTIVAL（土岐）」「Hon-Sanキッズフェス（高山）」「俵町サマーキッズフェスティバル（美濃）」

など、工夫を凝らしたイベントを実施し、多くの人出で賑わいました。当連合会事業においては、①コロナ禍を経て日々進化している「まちゼミ」の普及を目的とした「第5回岐阜県まちゼミフォーラム in 多治見」を開催致しました。岡崎まちゼミの会 松井洋一郎氏による「地域の宝、小さな店のこれから」と題した基調講演、野田まちゼミ 青木みどり氏、安来まちゼミ世話人の会 矢田敦子氏による事例発表、今回は新たな取り組みとして、4つのテーマに分けた分科会（スペシャル対談・まちゼミのワークショップ・出張プチまちゼミ）や、県立多治見高校まちづくりゼミの生徒による活動報告を実施致しました。②店主の高齢化・後継者不足・空き店舗の増加など商店街が抱える課題に対応すべく、「商店街の新たな担い手づくり」をテーマとした勉強会及び交流会を実施致しました。③岐阜県商業・金融課と連携を取り、県下11箇所の商店街の巡回指導を実施致しました。皆様からいただいた様々なご意見・ご要望を今後活かしていけるよう取り組んで参ります。

令和7年度は、変わりゆく消費者ニーズに対応すべく、SNSを活用した情報発信についての研修会事業を実施して参りたいと思います。

終わりに、今年1年が穏やかで、皆様にとって良い年となりますように心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶と致します。

第25回バサラカーニバル2024 瑞浪名物の年末恒例踊り納めイベント

◆主催：瑞浪バサラカーニバル実行委員会

2024年12月15日(日)に、瑞浪駅前一带で「バサラカーニバル2024」が開催されました。今年で25回目となる全国的に有名な瑞浪名物のイベントです。前日の前夜祭に引き続き、この日も多数の踊り子たちが毎年恒例の踊り納めイベントを楽しんでいました。

■ 全国から175チーム8,000人が参加

今回は全国から175組のチーム約8,000人が参加し、イベントを盛り上げました。瑞浪駅前一带を6つの会場に分け、各チーム5分の制限時間で踊りを披露します。各ステージで様々なチームが派手な衣装に身を包み、鳴子や傘などの小物も駆使してダイナミックな踊りを披露する光景が見られました。



▲公園通線会場で激しい踊りを披露

■ 被り物もOKの自由なコスチューム

衣装などには特段制約は無く、どのチームも工夫を凝らした出で立ちで臨んでいました。着ぐるみや被り物もOKです。刈谷から来たチーム「刈谷魁」は、刈谷名物のスイカの被り物やマントを身につけて踊りを披露していました。また来場しているチームは、北は北海道から南は九州まで全国各地からやっています。本番

前には真剣に打ち合わせをしたり、練習したりする姿が見られましたが、踊りが終わった後はやりきった開放感で、皆で記念撮影をする様子なども見られました。



▲スイカの被り物で踊りを披露した「刈谷魁」

■ 地元の中京高校も積極参加

また当イベントには、瑞浪市にある私立高校「中京高校」の生徒も多数参加されていました。今年は「中京高校 ALL STARS」として、公園通線の3会場を横断したバサラカーニバル史上最多の、総勢1,200名のチーム演舞を披露してくれました。また瑞浪駅前会場でも、野球部や剣道部などのATHLETEチームが、商店街のマスコット窯之助と一緒に激しい



▲ユニフォーム姿で踊る中京高校生徒

踊りを披露し、会場を盛り上げていました。

中京高校の生徒たちは踊り手としてだけでなく、イベントに必要な資材の搬入・搬出や、会場周辺のゴミ拾いなどのボランティア活動にも積極的に取り組んでおり、当イベントに欠かせない存在となっています。

■ バサラカーニバル開催は瑞浪商店街のプライド

瑞浪市商店街連合会会長有賀和秋さんにお話を伺いました。

「今年で25回目となる当バサラカーニバルは、2019年にピークとなる300チーム12,000名に参加していただきましたが、駐車場・トイレが逼迫し、警備費の高騰などもあったことから、コロナ開けから規模を縮小し、今回も175チーム程で開催しています。よさこい踊りのイベントは全国各地にあります、そのほとんどは審査があり、順位を競う大会となっ

ています。一方瑞浪のバサラカーニバルは順位を競うのではなく、踊りを楽しんでいただくことを目的に、1年の踊り納めのイベントとして開催しています。全国の踊りを楽しむ人々にとっての同窓会兼忘年会の様な位置づけとなっています。

また、瑞浪市商店街も当イベントを応援しています。会場運営のための交通規制への協力やキッチンカーの出店調整、当日も、子ども縁日やフェイスペイントのお店などの出店で盛り上げてくれています。

瑞浪駅周辺は近い将来、再開発を進める話があり、そんな中で今後もバサラカーニバルを続けていけるのか不安はありますが、イベントの開催は商店街にとってのプライドであり、こうしたイベントのおかげで商店街と地域のコミュニケーションも活性化されるため、時代に対応して進化しながら今後も続けていきたいと思っています。」

Xmasウィンドウディスプレイ2024 店舗を楽しく飾ってにぎやかに

◆主催：高山市商店街振興組合連合会

2024年12月にかけて、高山市商店街一帯で「Xmasウィンドウディスプレイ2024」が開催されました。商店街のそれぞれの店舗が独自に制作した装飾品で、店内やショーウィンドウを楽しく飾る企画です。寒さの厳しい高山の12月ですが、商店街全体がサンタの置物や電飾などで綺麗に飾られ、道行く人を楽しませていました。

■ 紙コップで作った雪だるまを展示

高山本町会商店街の「白啓酒店」のショーウィンドウでは、紙コップで作られた雪だるまの置物3体を、シャンパンなどの商品と一緒に展示していました。道行く通行人の方も足を止め、この可愛い雪ダルマを楽しそうに見つめている様子でした。

店主の方にお話を伺いましたが、この雪だる



▲高山市商店街を彩るサンタの置物や電飾

まは高山の名物まつり「ちょけらまいか」で被り物として使用するために、有志10人程で製作したもので、それに少し手を加えてクリスマス用の雪だるまにしているそうです。こういったディスプレイの展示によって通行人の方が足を止めてくれ、さらに店内に入ってきてくれることもあり、集客にも効果があるとのこと。



▲紙コップで作られた雪だるまの置物

■ 丸太で作った150体のサンタクロース

高山本町三丁目商店街では、丸太で作ったサンタクロースの置物が歩道を装飾していました。その数は計150体です。三丁目商店街フタバデンキの松葉さんが、1年に10体くらいのペースでコツコツ10数年かけて作りました。丸太は知人の製材所から分けていただき、顔などはお孫さんなどご家族で手分けして描かれたそうです。



▲舗道を飾る丸太で作ったサンタの置物

1体1体に表情があり、歩いているととても和やかな気持ちになります。今では三丁目商店街の年末の風物詩となっており、地元の方にも観光客にもとても人気があるとのこと。

■ 商店街を明るく楽しくしたい

当イベントの主催である、高山市商店街振興組合連合会女性部松葉早百合さんにお話を伺いました。

「当ウィンドウディスプレイイベントは、今回で36回目となりました。最初の頃は、年に数回コンテスト方式で開催していましたが、ディスプレイが本格的になり、イベントのハードルが高くなるにつれて、なかなか賞を取れない店舗や参加を躊躇する店舗も出てくるなど、参加店舗数が伸び悩む時期が続きました。そこで競い合わないフェスタ方式に変更したところ、気軽に参加をしていただく店舗が徐々に増えていき、現在では65店舗に参加いただいています。ツリー1本やサンタの置物1体などでもOKにしていますし、それだけでも全くやらないよりは、お店の雰囲気には大きな違いが出ると思います。」



▲参加店舗に贈呈されるポインセチア

参加店舗には、ポインセチアの花をプレゼントしています。色が鮮やかで店内を明るくする効果があり、多くの参加店舗さんに店内に飾っていただいています。また、近隣にある『にぎわい交流館大政』さんには、クリスマスデコレーションを貸し出し、施設内をクリスマス風に飾っていただくことで、一緒に当イベントを盛り上げてもらっています。施設を訪れる子供たちや外国人の方などにも評判が良いそうです。こういったイベントの開催は、商店街メンバーの結束を更に強くする効果があると思います。商店街メンバーは40代から80代まで幅広く様々ですが、みんな元気に活動されていますし、会ってお話しするときも明るい話ばかりをしています。お客様も商店街メンバーも元気に明るくするこのようなイベントを、今後も地道に続けていきたいと思っています。」

オリジナルのネックレスや年賀状作りを直接指導 多治見 まちゼミ

◆主催：多治見まちゼミ実行委員会

2024年11月1日（金）～11月30日（土）の1ヶ月にかけて、多治見市中心部で「まちゼミ」が開催されました。先月号の恵那・中津川と同様に、商店街のお店の人が講師になり、プロの専門知識を地域の方へ教える企画です。多治見市では計40講座が開催されましたが、参加者のオリジナルアイテムを作る「ネックレス作り」と「年賀状作り」の講座を取材しました。

■ Y字パールネックレス作りに挑戦

多治見駅前の商業施設「プラティ多治見」1階の観葉植物のお店「まつぼっくり」では、「Y字パールネックレス作り」が開催されました。このお店は、今年10月18日にオープンしたばかりの新しいお店です。当日は、アクセサリーに興味のある女性の方々が多数参加されていました。



▲ Y字ネックレス作りにチャレンジ

このネックレスは一般的な円形の形に加え、Y字型にもなるのが特徴です。首が太い方や短い方で、ネックレスがあまり似合わないと思われる方でも、Y字ネックレスは首元をすっきり見せて、スタイルアップさせる効果があるそうです。この日の参加者の方は、アクセサリー作り未経験の方が多かったのですが、先生の丁寧

で明るい指導により、とても楽しい雰囲気が進んでいきました。最後はどの参加者の方もオリジナルのネックレスを綺麗に作ることができ、大満足な様子でした。

■ 多治見市を盛り上げたい

店長の松雄太さんにお話をお伺いしました。

「当店は、観葉植物の販売やレンタルスペースの提供等を行う、先月できたばかりの新しいお店です。当店の本社がある春日井市は、サボテンの栽培で有名で、多種多様なサボテンを全国に出荷していますが、当店の商品も本社の流通ルートから、安価で質のよいものを調達しています。また当店のサボテンは、多治見市で調達した美濃焼の湯呑等の底に、自社で穴を開けたオリジナルの鉢植えに入れて販売しています。多治見市と春日井市をコラボさせた独自商品で、地元へ貢献するという狙いもあります。



▲ 店長の松雄太さん

当社の社長は多治見市の出身で、地元へ貢献したいという思いで、このお店をこの地にオープンさせました。今後も多治見市を盛り上げるためにできることは積極的に参加していきたいという思いをもたれているため、これからも従業員一同で地域貢献の取り組みを進めていきたい

いと考えています。

住所：多治見市本町1-122

TEL：070-7813-6054

営業時間：月～日 9時～18時

定休日：不定休

■ 筆ペンで年賀状作りにチャレンジ

多治見ながせ商店街に工房を持ち、就労継続支援を行う「Hitsuji gumo・Sun」では、筆ペンを使った年賀状制作講座が開催されました。講師を務めるのはこの施設の代表であり、書道の師範でもある宮崎里美さんです。当日は3名の参加者の方に丁寧に筆ペンの使い方を指導されていました。



▲筆ペンの使い方をわかりやすく指導

来年は巳年ということもあり、今回は筆ペンで蛇の絵を描くことにチャレンジです。筆ペンを使ったことが無いという参加者の方もいらっしゃいましたが、綺麗な丸の書き方やちょっと雰囲気の出るかすれた線の書き方などの指導を受け、熱心に取り組まれている様子でした。色は黒と赤しか使っていませんが、線の太さに抑揚をだし、文字も丸みのある部分や角ばった部分などを所々に混ぜることで、2色だけでもとても見栄えのする年賀状に仕上がっていきます。また蛇の顔を入れることで、ちょっと怖いイメージのあった蛇の絵が突然可愛らしくなり、参加者の方も驚いている様子でした。

最後には、3名の参加者の方それぞれ個性が

ありながらも、しっかりポイントを押さえた美しい年賀状を作成することができ、とても満足されている様子でした。



▲参加者の作品

講師の宮崎先生にお話を伺いました。

「筆ペンは普段使う機会が少ないので、構えてしまう方が多いですが、絵を描いたり可愛い文字を書いたりして、楽しく遊ぶような感じで筆ペンを使うことができることを伝えることが本講座の狙いです。私も元々絵を描くのは苦手でしたが、筆ペンでしたらシンプルで且つ表現力のある絵や文字を簡単に描くことができます。絵が苦手な方にも筆ペンはお勧めですので多くの方に筆ペンの良さを広めたいです。」

また当店では就労支援として様々な物を作っていますが、次回のまちゼミでは廃棄処分する予定のエアバッグを素材にした、トートバッグを作る講座を開催する予定です。捨てる予定のものを形を変えて生まれ変わらせるエコな取り組みを通じて、社会貢献出来たらと思っています。」

住所：多治見市本町3-3-5

TEL：0572-25-3485

営業時間：10時～16時30分

定休日：土日・祝日



岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。